

MRI ECONOMIC REVIEW

株式会社三菱総合研究所
政策・経済研究センター

米大統領選の行方(1) 本命苦戦、異例の展開

2016年2月のアイオワ州党員集会を皮切りに、4年に1度の米国大統領選挙が始まった。8年間政権を握ったオバマ大統領に代わり、第45代米大統領として選ばれるのは誰か、世界中が固唾をのんで見守っている。

米国の大統領は世界にとっても特別な存在だ。戦後の米国は、経済・科学技術など様々な分野で世界をリード。突出した経済力・軍事力を背景に、国際社会の秩序・ルール形成においても中心的な役割を担ってきた。

近年は新興国が台頭する中、世界の多極化が進展し、米国一極の状況からは変化しつつある。しかし、世界最大の経済大国である米国の大統領選挙が、依然として世界の重要な関心事であることに変わりない。

二大政党である民主党も共和党も、当初は本命視されていた候補者が苦戦。一方、非主流派（アウトサイダー）の候補者が躍進する異例の展開が続いてきた。

これまでのところ民主党では、オバマ政権で国務長官の経験を持つクリントン氏が優位を維持するが、「民主社会主義者」と自称するサンダース氏も健闘している。共和党では、フロリダ州知事の経験を持つブッシュ氏が、支持率が低迷する中、2月下旬に撤退を表明。一方、不動産王トランプ氏が熱狂的なファンの支持を背景に多くの代議員数を獲得し、保守派草の根運動「茶会」（ティーパーティー）の支持を受けるクルーズ氏も2番手となっている。

なぜこのような異例の展開になったのか。本稿では、米大統領選挙の基本を整理し、非主流派候補者の躍進の背景にある米国の現状を解説する。

近年の米大統領		
在任期間	名前	政党
1989～ 93年	ジョージ・H・W・ ブッシュ	共和党
93～ 2001年	ビル・クリントン	民主党
01～ 09年	ジョージ・W・ ブッシュ	共和党
09年～	バラク・オバマ	民主党

※本コラムは、日本経済新聞の「ゼミナール」に2016年3月4日から17日まで10回にわたり掲載されたものです。

内容の全部または一部を無断で複写・転載することは禁止されています。